

平成 30 年度政策研究会報告会のお知らせ

県、市町村或いは民間団体等から集まった 15 名の研究員が 3 チームに分かれ、5 月から約半年間にわたり現地調査やグループワークを重ね、課題解決に向けた政策提言をまとめました。

このたび、活動の成果を広く発信し、同じ課題を抱える地域の活性化に資するため、報告会を開催します。



あわせて、小さな自治体でありながら、移住者による起業支援に積極的に取り組み、多くのローカルベンチャーが生まれ、さらに 2018 年 6 月には、自治体初の仮想通貨による資金調達を決めるなど次々と新しい政策にチャレンジしている岡山県西粟倉村から村長をお迎えし、ご講演をいただきます。

日 時： 平成 30 年 11 月 27 日 (火) 13:30~16:30

場 所： 福島テルサ 中会議室「あづま」(福島市上町 4-25)

プログラム：

- | | |
|-------------|--|
| 13:30 | 開会 |
| 13:35~14:55 | 基調講演 岡山県西粟倉村長 青木秀樹氏
演題 (仮)「小ささをバネに！地方に新しいヒトの流れをつくる」 |
| 15:05~16:20 | 研究会成果報告
調査研究フィールド：葛尾村
テーマ：「村内施設の効果的な運営を視野に入れた交流人口拡大」 |
| 16:20~ | 講評 |
| 16:30 | 閉会 |



チームKATSURAO☆YADORI

・村唯一の宿泊拠点「せせらぎ荘」の集客力を高めつつ、今ある地域資源を生かしたむらづくりのコンセプトも見据えます



チームMASSAN

・復興交流館「あぜりあ」が村内や村外から人が集まる交流拠点となるようにイベントや取組みを提案します



チームサプリーズ

・旧校舎など未利用施設を活用し、ここにしかない体験ができることで村の魅力を高め、村外の人が訪れるきっかけづくりを提案します

次々と新しい政策にチャレンジし、移住・定住増加等の実績をあげている
岡山県西粟倉村長による基調講演

青木 秀樹氏（西粟倉村長）

1954 年生まれ

S52 年 3 月大学卒業後大阪市内の民間会社に就職

S56 年 7 月に村へ帰り家業の食品会社に従事する。

H7 年 4 月村議会初当選、以来連続 5 期当選し、

5 期目の平成 23 年 6 月末日に職を辞し、村長選に出馬。

同年 9 月 4 日初当選。H27 年 8 月 30 日再選。

現在 2 期目を務める。村議会在任中は、

総務常任委員長 1 期、議長 2 期と要職を務める。



移住起業が活発化し、子供が増えている

西粟倉村は、約 1,500 人が暮らし、村の面積の約 95%を森林が占める自治体です。

「平成の大合併」で周囲の自治体の大半が合併を受け入れる中、自立の道を選択した西粟倉村では、地域資源としての価値を見失いかけた林業を活性化させて持続可能な地域づくりを目指し、2008 年に「百年の森林（もり）構想」を掲げ、伐採から加工、流通までを行う林業の六次産業化や、移住起業支援事業である「ローカルベンチャースクール」などに積極的に取り組んできました。

また、これら地域の経済的価値の向上に加え、国際社会の開発目標として国連サミットで採択された持続可能な開発目標「Sustainable Development Goals」（通称：SDGs）の達成に向けた取り組みも行っています。

こうした取り組みを通じて、地域ではたくさんのローカルベンチャーが生まれてきました。そしてそのローカルベンチャーの周りに人が集まり、新たな生態系が生まれ、そこで様々な可能性が実現されてきています。

この流れを加速させ、「人」を中心に「地域」を創っていくために、2018 年地方創生 ICO（ブロックチェーン技術を前提とした独自の通貨）の発行、それに伴うトークンエコノミーの形成を実現していくことを発表しました。

自治体初の ICO 発行による資金調達に挑戦